

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>昨年末に開所から約半年を振り返り、町中にあるグループホームとしてのあり方を職員全員で考え理念を作り上げた。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>廊下に張り出し既存職員は日々ケアを振り返る、毎日読んでケアに取り組んだと異動してきた職員もおり、取り組んでいると感じている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域に出たいという思いを御家族には日々のケアを通して情報を流し理解を得ようとしている。運営推進会議を通じて地域の方の発信源である区長・民生委員には地域で踏ん張りたいという思いを伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>回覧板を回したり散歩・買い物などで近所の方をはじめ地域の方に出会った時は挨拶を行っている。地元の朝市に出かけ声を掛けてもらう事もある。中庭から声をかけて下さり、野菜を頂いた事もあった。豆腐販売など隣の方に声をかけに行っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>消火訓練・開放保育・地藏盆・に参加している。招待を受け、保育所・小学校・幼稚園の発表会や運動会に参加し見学させて頂いている。</p>	

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	夏祭りを開催し、健康相談・介護相談所を設け地域の方の現状把握に努めたが、相談はなかった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	前回の評価を受け、モニタリング・ケアプラン作成を全職員で行い、その方のケアに行かせる努力を行っている。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	ケアの取り組み・入居者の情報を伝える事は出来ていると感じる。御家族代表の意見は特に参考になり、その思いをくみ取ったケアを行いたいと思っている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	徘徊模擬訓練を市民局が中心となり、町内介護事業所・病院等が協力して行い、当日までも認知症についての意見交換・勉強会などを行った。地域密着サービス交流会を2か月に一度持ち、指導を受ける、相談できる場所となっている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	該当者が入居者の中にもおられるが、全職員の学ぶ機会とまでは行かなかった。	○	実例を通す事で理解しやすいと思われ、制度に対する知識の向上に努めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待防止関連法を学ぶ機会を持っていない。	○	虐待防止の研修などがあれば参加していきたい。

グループホームあみの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>御家族・ご本人との思いを申し込み時に聞かせて頂き理解する努力を行っている。また、担当ケアマネからも情報を貰う様に調整している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の中で話を聞きケアに繋げる様に配慮しているサービス担当者会議にて利用者の意見を聴く様に努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診・往診結果を必ず電話にて報告している。預かり金については3か月に一時報告書を送付し、報告書と共に担当職員より近況報告・行事等を書いた手紙を同封している。職員の移動については面会時に報告をしている。</p>	<p>○ 手紙だけでなく写真などを同封し生活をより分かりやすく報告できるようにする事となった。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会・電話での調整等で意見を頂く様に配慮し、何かあれば連絡帳などで情報を共有しケアに生かしている。</p>	<p>○ 家族と職員だけの家族会を持ち、真意が聞ける場を設けたいと思っている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケア会議を月に一度も受けている。それまで待てないケースはパソコン内の伝言板を通して意見を貰う様にしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の体調や身体的・精神的変化に応じ勤務者の数を調整し対応方法(買い物等)を確認しケアに努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定年退職・異動が3度あったが、隣の小規模への異動であったり、事前に報告を行うなど精神面を考慮出来ていると感じる。</p>	

グループホームあみの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>計画は庶務部が中心となり計画を立てている。研修に随時参加できるように配慮している。特に新人職員については内外の新人研修に参加をしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2か月に一度、他施設との交流会があり、施設見学を兼ねて意見交流会に参加している。わからない事は電話等で教えて頂く事もうある。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>時間外勤務もほぼなく休み希望や勤務形態希望を受け入れる様に努力している。業務の負担が分散するように配慮をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修・勉強会等に順番に参加できるように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人からの訴えは居室で時間を掛けて聞き、行動からも変化をキャッチし一人で訴えや変化に対応するのではなく連絡帳で情報を共有し、ケア会議・担当間での話し合いでケアに活かす努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>施設見学に来られた際、話をする時間を作り、希望・思いを受け止める様にしている。</p>	

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際、居室が空いていないことが多く、他施設の開所情報や他サービスの利用などを進めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	宿泊ありの体験利用をして頂いたり、小規模からの移行の利用者は小規模利用時に自ら遊びに来られる事もあり、少しずつ慣れて頂く工夫を行った。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般を一緒に行う事で、残存能力を使ってもらい、新たな力を見出し、利用者の力を奪わない努力をしている。家事や生活の中だけでなく以前、看護師をしていた利用者の方への接し方など生活歴からも学ぶ事が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	散髪や受診等、出来る事は継続して頂いている。	○	時間の経過とともに面会が少なくなる家族もあり、面会や一緒に出かける機会が増加する対策を考えたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長期休み・正月・盆などの帰省や家族同行遠足、忘年会など家族を含めた行事を取り入れている。	○	同上
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家ドライブ・自宅帰省などの行事を月に一回取り入れている。その中で家族だけでなく近所の方との触れ合いを大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係より席移動を行ったり、テーブルの配置換えをしている。		

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族との関係は継続できていないが、他施設へ面会に行ったり、手紙のやりとりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議で本人の希望や生きがいを聞き出す努力を行い、それを日々にケアに取り入れている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れ、本人と家族の言葉から現在の行動を理解する努力を行っている。	○	センター方式がケアに直結しにくい。書きやすい改善が必要だと考案中である。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜間の睡眠状態や日中の活動量、精神面のみならず身体状態(バイタル・浮腫等)を観察し総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一回のケア会議とサービス担当者会議を定期的に持っている。また、日々の利用者の様子から今後のケアのあり方について相談し、職員の意見やアイデアをもとに介護計画を作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時と変化がなければ半年に一回の見直しを行っている。変化があったばあいはその都度、プランの見直しを行っている。	○	御家族の要望が職員に任せる、現状維持での言葉が多く、家族の意見も多く組み入れたプラン作成が必要だと感じている。

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言動・行動を日々記録し確認しながら職員間で共有しケアに取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援など同行するようし、ホーム内の見守りが不十分だと感じられる時は、併設している小規模職員に応援を要請している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市民局を中心に徘徊ネットワークを作り、徘徊者が出た場合でもすぐに見つけられる様に取り組んでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設へ移行される際、ケアマネとの調整を行った。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難ケースなど市民局に相談するようしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医への受診を継続している。		

グループホームあみの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	急にその時が訪れる事も十分に考えられ、早めに方針を上げたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

グループホームあみの

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方にとって良いと思った事が利用者の機嫌を損ねる言動だった事もあり、言葉のかけ方が難しいと感じている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉だけでは通じない方には張り紙をしたり、メモを渡すなど、その方に合った方法で暮らしていける様に工夫している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員思いや業務中心となって動いてしまっている部分がまだ多い感じる。	○ 利用者の目線に立ち思いをくみ取る事が出来るけあに努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族と相談の上、昔馴染みの美容院に行かれる方がおられる。マニキュアや眉ペンなどを用意し、化粧も楽しんで頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・調理・盛り付け・片付けを一緒に行っている。	○ メニューが決まっているが、買い物に行った時に食べたい物を引き出し、それを提供できるような食事内容でありたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に行き、希望される食べ物や今までの習慣から飲んでおられた牛乳など、預かり金より購入し食への楽しみを持って頂いている。	

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を利用し、排泄パターンの把握を行っている。また、身体変化に応じて排泄用品の見直しも早い段階から行えている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めているが、希望によって変化をしている。夕方のシャワー浴なども日によっては行える。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室や食堂のソファを利用し後睡をとられる方がおられ、室内温度と寝過ぎないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ等の外出や行事・子供との触れ合い等の機会を提供するようにしている。	○	まだ、それぞれの利用者の楽しみを把握できていないと感じる。楽しみの持てる生活を提供する為、確実に把握し楽しみを提供、一緒に作り出したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的不安をもたれる方に関しては家族と相談の元、お金を所持して頂いている。買い物に行った際、預かり金より支払いを行うが、職員が払うのではなく、利用者本人に払ってもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事前や職員体制によっては玄関で止めてしまう事もあるが、ほぼ外出は同行出来ている。	○	天候の良い日はもっと出かける回数を増やしたいと思う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望が上がり範囲内であれば希望を実現出来ている。家族ともお墓参りやお孫さんの演奏会に出かけられている。	○	閉鎖的にならない様に、週1回のドライブ・月1回の外食を实行したい。

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親戚宅への電話・手紙の支援は行えている。	○	預かり金報告書と一緒に送付する担当職員を手紙するが、本人にも書いて頂ける様にしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた方にはいつでも気軽に来て頂ける様に伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	職員全員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について把握できていないため、学ぶ機会が必要である。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19時に施錠し8時に開錠を行っており、日中に鍵をかける事はない。職員体制や夕方、落ち着かず行方不明とならない様に30分程度施錠を早める事はある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行方不明となられる方がおられ、センサーなどを利用しながら、所在の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の身体的能力に合わせ、手すりなどの設置を行い環境を整えている。また、内服薬は職員管理とし誤薬などに注意を払っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作り、それに基づいて対応できるように配慮している。また、事前に事故防止できるようにセンサー設置・家具の移動等を行っている。		

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回、救急講習会を行い勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年に2回へ右折している小規模多機能施設と一緒に開催している。災害時の応援は地域の方には運営推進会議を通じてお願いしをしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に近況報告を交え、予測されるリスクについて話をし改善策を提案・一緒に考える等の対応を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調に変化があった場合は看護師の判断を仰ぎ対応を行う。また、申し送りを行い職員全員が把握に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員管理とし服薬支援を行っている。処方箋ファイルを作成し、何時でも確認出来る様になっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食には毎朝、牛乳をつけ排便を促している。散歩や体操など身体を動かす機会を作っている。看護師中心に排便コントロールをおこなっているが、全職員が把握できるように排便表・水分摂取表なども作っている(入居者の体調悪化時に使用)		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後のはみがきは行えている。	○	拒否の有る方や全利用者が毎食後に歯磨きができておらず、今後も課題だと感じる。

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がてたメニューを参考にしバランスのとれた食事メニュー作りを行っている。水分摂取には常に配慮し、飲みやすい・飲み慣れた水分を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。感染症の流行する季節には呼びかけなどを連絡帳を通して行い全職員が留置するようになっている。外出から帰ったら、手洗い・うがいの慣行を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の取扱いを全職員で共有し、それに基づいて片付けを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入りやすいように中が覗きやすいように天候の良い日は玄関を開けているが、利用者さんが止めてしまい閉鎖的な印象かも知れない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を利用者で行い、食堂には季節の花や写真を飾っている。家に近い状態を目指し事務用品などは目に見える所には置いていない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬季はコタツを置き、夏季はフローリングなど共有スペースに変化をつけ、過ごしやすい空間作りを行っている。	○	食堂の実が共有スペースであり、他で数人が集まる場所がない。工夫が必要。

グループホームあみの

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人が使用していた物・写真・絵等を持参して頂き。過ごし やすい様な工夫を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	天候の良い日は換気を行い、湿度や温度の変化にも敏感に なり居室・食堂などの温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	必要な場所だけに手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	待つ介護を事業計画にあげ本人の出来ない所のみを補うケア に取り組んでいるが、時間や職員体制より待つ介護ができて いるとは言えない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に花野菜を作っている。植林を行い、他部署の方と 過ごせるスペースが出来た。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームあみの

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

少しでも刺激ある生活を行って欲しいとの思いから、利用者のしたい事や訴えられない方は職員がその方の生活歴から何が大切だと思って生きて来られたかを考えて、月に一度

その方のしたい事を叶える日を作った。自宅帰省・実家周辺ドライブ・趣味活動の披露会などを行っている。